

郷土の誇り「赤水」

重文決定に寄せて

佐川春久



3月19日、国の文化審議
会が長久保赤水（1717〜
1801年）の代表作で
ある地図「改正日本輿地路
程全図」（通称・赤水図）

など関係資料693点につ
いて、「国の重要文化財指
定が適当である」と、文部
科学大臣に答申した。
その具体的な内容を見て
みると、「この資料群は、
江戸中後期の文化史、

江戸庶民が見た日本地図



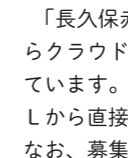
長久保赤水の肖像画

長久保赤水の子孫に当たる
複数の家などに伝来した赤
水手沢の一括資料である。
地図・絵画類が84点、文書
・記録類が279点、典籍
類が274点、書画・器物
類が56点から構成される。
赤水の学問の内容、交友関
係、生涯の事績を考えるつ
いで最もまとまった資料群
で、江戸中後期の文化史、

論文が掲載されている。
この時代に地図を専攻し
ていた学生たちは、伊能忠
敬と並んで、赤水のことに
ついて必ず学んでいたと
いう。
しかし、伊能忠敬が教科
書に登場し、テレビや映画
小説などで「初めて日本地
図を作った人」と紹介され
ると、その状況が次第に変
わっていったという。つま
り、赤水の業績が、その陰
に隠れて見えなくなってい
ったのである。
最近、分かってきたこと
がある。忠敬の伊能図は、江
戸幕府の秘密の地図だった
ので、幕府の要人は見るこ
とができなかったが、江戸の多く
の庶民や明治維新に奔走し
ていた幕末の志士たちは、
伊能図を見ていなかった。
浦賀にペリー艦隊が来た時

も、江戸の人々が見ていた
のは「赤水図」であった。
幕末の長州藩の指導者と
して知られる吉田松陰は1
853（嘉永6）年2月11
日、大阪から実家の兄に宛
てた手紙に、「『改正日本
輿地路程全図』がなくては
不自由なので、こちらで買
い求めた。値段は参百八十
文。そういう事なので送っ
ていただかなくても結構」と
書いている。
つまり、江戸時代の庶民
にとつての日本地図は「赤
水図」だったのである。
今回の国の重要文化財指
定が決定したのを契機に、
江戸時代末、約100年間
のロングセラーだった「赤
水図」をもう一度見直し、
正しく評価していただく必
要があると思っている。
（長久保赤水顕彰会長）

寄付金募る！「長久保赤水 キャンプファイヤー」で検索！！



「長久保赤水顕彰会」では、国の重要文化財指定記念の各種事業展開のため、3月29日からクラウドファンディング「CAMPFIRE(キャンプファイヤー)」において購入型寄付を募っています。「長久保赤水 キャンプファイヤー」で検索または、左のQRコードや以下のURLから直接プロジェクトページにアクセスいただきぜひご支援をよろしくお願い致します。なお、募集期間は、6月16日(火)までです。よろしくお願い致します。
https://camp-fire.jp/projects/view/249538

郷土の誇り「赤水」

重文決定に寄せて

佐川春久



長久保赤水が手書きで製
作した「改製日本分里図」
は赤水の代表作 改正日本
輿地路程全図（通称・赤水

86（昭和5）年に描かれ
た。子孫である長久保甫氏
が寄贈し、高萩市歴史民俗
資料館が所蔵している。
地形や地名には、胡粉に
よる多くの修正痕や和紙を
何枚も重ねて書き直した跡
が残されており、赤水が考
証してはその都度、修正し
ていたことが見て取れる。

世界に1枚の手書き地図

製した。まさに、汗と英知
の結晶である。
国民の財産となることが
決まった今、まさに、世界
に1枚しかない手書きのこ
の地図は、必見の価値があ
るだろう。
大きさは、縦0・846
び、横1・348び。17

また、この地図は「安井
春海の所考」として、初め
て緯度を記入した日本図で
ある。奄美群島や琉球諸島
は描かれていないが、蝦夷
地の南端、対馬、朝鮮半島
南東端は描かれ、さらに日
本海には竹島と松島が描か
れている。
（長久保赤水顕彰会長）

◆国の重要文化財指定記念 原寸大『赤水図』レプリカ (再版・両面刷り)

令和2年11月6日(赤水の誕生日)発行予定!



高萩・赤水を愛する皆様へ
10万円まで
スポンサー企業名
の掲載権
クラウドファンディング10万円以上
の法人寄付につきましては、原寸
大『赤水図』レプリカの裏面下部に
企業名が入ります。【裏面】
【表面】
表面には、【赤水図で吉田松陰の「東北遊日記」
の足跡を辿ろう!!】裏面には、【赤水図の変遷】
を掲載。
原図、初版、第2版、第3版、第4版、第5
版を比較できるA3判のレプリカです。
【制作見本】
みなさまのご協力
お願い致します
こちらに企業名を掲載させていただきます

長久保赤水 高まる評価



J R高萩駅前にある長久保赤水の像 (茨城県高萩市)

茨城県高萩市出身で江
戸時代の地理学者、長久
保赤水（ながくほ・せき
すい、1717〜180
1年）が近年、知名度を
上げている。初めて実測
で日本地図を作った伊能
忠敬（いのう・ただたか
1745〜1818年）
より42年早く、情報収集
による精度の高い「赤水
図」を作り、庶民や後世
の知識人に広めた功績が
評価され始めた。

日本地図 伊能忠敬より40年早く

取り入れたことで、日本
で初めて経線と緯線が書
かれ、比較的正確なのが
特徴。中でも1779年
に初版が完成した「改正
日本輿地路程全図」（通
称・赤水図）は実用性が
高く、江戸時代の庶民に
広く流通した。幕末の志
士を育んだ吉田松陰（1
830〜59年）が兄に宛
てた手紙には「これが無
くては不自由」と、赤水
図を旅に役立てていたこ
とが記されている。
1821年に完成した
伊能忠敬の地図は、伊能
自身が実際に各地を歩き
歩幅で測量したことで有
名。一方で赤水は自分で
集めた地名などの情報を

高精度「世界に誇れる先人」

地図に盛り込んだため、
内陸の情報も豊富だ。長
久保赤水顕彰会の佐川春
久会長（70）は「友人が
多く、旅人にもお茶をこ
ちそうして話を聞くなど、
情報収集能力にたけていた」と強調する。
赤水の関連資料693
点は、2017年に県指
定有形文化財になるなど
徐々に価値を評価され、
国の文化審議会は今年3
月、同資料を国の重要文
化財に指定するよう文部
科学相に答申した。
さらに知名度を上げよ
うと顕彰会は同月、赤水
が地図に書き残した不忠
義な海上現象を元にした
絵本「りゅうのひかり」
を出版。縦約84び、横約
128びの赤水図のレプ
リカ発行を目指し、資金
300万円をクラウドフ
ァンディングで募る。
今後、吉田松陰ゆかり
の松陰神社（山口県萩市）
でもレプリカが展示され
る見通しだ。佐川さんは
「世界で通用する、誇れ
る先人の一人。地理の歴
史の中に赤水図をしっか
り位置付けたい」と語り、
将来的には大河ドラマ化
も目指している。



いったい何者？
江戸の地図男！！

長久保赤水 (1717～1801)

1717年、常陸国多賀郡赤浜村現在の高萩市の農家に生
まれる。幼くして父母を失い継母の手で育てられた14歳のころ、
鈴木松江（まげ）について学問や詩の手ほどきを受けた。その後、
水戸の学者である名越南深に学び学問研究に励むと同時に、貧
困者や病人などを救うために活躍し地域の人々から尊敬された。
赤水52歳のとき、水戸藩から学問の功績によって郷土格に列
せられる。後に、61歳の時、水戸藩主徳川治保の侍講となり、
江戸小石川に勤めた。一農民から侍講となった者は例のないこ
とであった。
赤水の功績としてよく有名なのが、1779年に完成 翌
年の春に刊行した『改正日本輿地路程全図』である。地図の正
確さと詳細さ、便利さが喜ばれ、長い間多くのの人々に役立った。
まさに、近代化の日本地図の先駆けであった。
その後は藩主の命により、徳川光圀が編纂を始めた「大日本
史」の「地理志」執筆にあたり、81歳までその完成に努力し、
1801年赤浜村で85歳の生涯を終えた。赤水の学者としての
功績・努力は、郷土の先人として学ぶところが大きい。
（佐川春久）

明治維新エネルギーの起爆剤「赤水図」

日本地図といえば伊能忠敬を思い浮かべる人が多いのですが、伊能図は幕府により秘蔵され、実は江戸時代には庶民の目には触れなかったのです。これに対し、長久保赤水の赤水図は、江戸時代末期までの約100年間ベストセラーとなり、吉田松陰も愛用したと言われてます。明治維新のエネルギーは、この赤水図をもとに生まれたとも言えます。

初めて経緯線の入った日本地図を発刊し大衆化

赤水は地図に天文学の知識を取り入れ、初めて経緯線の入った日本地図を発刊し大衆化しました。最大の特徴は実用性です。多くの情報を収集し、学問的に検証に検証を重ねた編集図です。若い時から和漢の天文・地理の書に精通し、木村兼葎堂や古川古松軒など幅広い交友関係があったので、正確で詳細な地図が作れたのです。

松下村塾や全国の藩校で使われた赤水図

浦賀にペリー艦隊が来た時も、伊能図は江戸幕府の秘図のため、ごく限られた幕府要人しか見ることができず、明治初年まで一般人は利用できませんでした。このため、萩の松下村塾をはじめ全国の藩校で使われていたのは、赤水の日本地図、中国地図、世界地図、中国歴史図帳でした。江戸時代の人々に、日本が世界のどこにあり、今自分が日本のどこに立っているかを教えてくれた地図です。幕末の黎明期に、諸外国が日本を植民地化しようとして押し寄せた時に、日本を救ったのが赤水図なのです。

伊能忠敬も赤水図を測量にも携帯

小宮山楓軒の「懐宝日記」には、【伊能忠敬は幕府の命令で日本地図を製作している。人に話して「私は諸州を歩き回って実測で地図を作ったが、非常に難しいと感じる。水戸の長久保赤水が居ながらにして地図を作れたことには、非常に感心する」と書いている。】さらに「江戸日記」や「測量日記」に【忠敬も赤水図を所持しており、測量にも携帯して随時参照している】とあります。

世界に通用した日本が誇る先人、長久保赤水

長久保赤水は、明治44年6月1日に、日本地図や大日本史地理志編纂などの功績で、従四位を贈られました。時の内閣総理大臣は桂太郎でした。松平昭昭、貝原益軒、横保己一、桂川甫周、大槻玄潭、柴野彦輔などと並んで、5番目に長久保源五兵衛（赤水）の名前があります。この時の追贈者は全部で12名でした。